



# 前南進路だより



R8・第6号 6月8日発行

## 1、志望校を選ぼう！

6月を迎え、1学期もほぼ半分が経過しました。第4号でもお伝えしたように、1・2年生は次年度に向けた文理／科目選択の予備調査が行われます。また、3年生は5月末に実施した進研共通テスト模試の結果が6月末に公表となり、それに合わせて志望校検討会が開催されます。

志望校を「決める」ということは、一般選抜の場合には、国公立大は各日程1校に出願し、私立大は受験日程や併願校などをふまえ、万全な状態で第1志望の大学に受験をすることです。その際、あらかじめ決めていた目標校・実力相応校・安全校の中から、共通テスト得点率や赤本の得点を参考にして、どの大学を受験するか「選ぶ」ということが必要です。目標校の合格を目指して学習を継続し、共通テストで思うように得点がとれなかった場合は、実力相応校や安全校に志望校を変更する（「選ぶ」）必要があります。そこで、国公立大と私立大で合格難易度が上がると、入試がどう変化するか、まとめてみました。

### (1) 合格難易度が上がると

※旺文社パスナビ参照

6月にインターハイ予選が行われ、さらなる上位大会へ出場する人もいれば、引退する人もいます。そして、夏休みを迎え、いよいよ受験勉強が本格的にスタートします。「志望校のランクアップを狙いたい」「目標校に合格したい」など、希望の進路実現に向けて学習を進めてほしいと思います。もちろん、この時期からであれば、合格の可能性は十分にあります。ただ、合格難易度が上がれば、入試の内容や合格基準、受験対策などのハードルが高くなります。そこで合格をつかむには、第3号でもご紹介したように、自分が超えるべきハードルとその高さを理解し、戦略的に対策を進める必要があります。

### 【一般選抜（国公立大編）】

	中堅レベルまで	上位～難関レベル
2次（個別）試験 （前期日程）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3教科型のほか、1～2教科型も</li> <li>・小論文や面接のみのケースも</li> <li>・学科試験は基礎～標準レベル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3教科が基本。最難関大は4教科</li> <li>・攻略には、万全の基礎固めと傾向に即した演習量が必要</li> </ul>
共通テストの目標点 （得点率）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・65～75%が目安</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上位レベルで75～85% 旧帝大などは85%以上が目安</li> </ul>

#### <入試内容>

- ・共通テストは、6教科8科目が基本（公立大では少ないケースも）。
- ・上位レベルは、筑波大・千葉大・横浜国立大などが該当
- ・2次（個別）試験は、大学による違いがある、多岐にわたる（要項等で確認）
- ・上位～難関レベルは科目数が3～4、理系では理科専門2科目が基本

#### <受験対策>

- ・中堅レベル → 共テの配点が高く、まずは共テ対策が重要となるため、日々の授業や共テ演習で着実に力を伸ばしていく  
2次試験は、記述式とはいえ基礎～標準レベルが中心なので、基礎固めをしてから記述対策をすれば、ある程度対応できる

- ・上位～難関レベル → 2次試験が高配点となり、出題レベル（設問、語彙など）も上がる。難関大になれば、自分の言葉で過不足なく答案をまとめる高度な論述力も求められる。
- 対応としては、基礎学力を万全にしたあと、過去問などで数多く演習を重ねる必要がある。答案の添削指導も重要。もちろん、高得点が必要な共対策も手を抜けない。したがって、**受験対策には時間がかかるため、いち早く着手し、計画的・戦略的に学習を進めていきたい**

※参考：国公立大の入試科目・配点（抜粋） 【経済・経営・商（前期）】

大学	学部	共テ 2次 配点	200	100	100	200	100	100	100	100	100	2次 科目	得 点 率	国 数 英
			国	数 ①	数 ②	英 R L	社 ①	社 ②	理 ①	理 ②	情 報			
横浜国立	経済	1000 800	200	100	100	160 40	300 (3)			100	英数 自己推薦書	78	170	
金沢	経済 学類	700 1050	100	50	50	50 50	100	100	100	×	100	国数英	68	145
埼玉	経済	950 500	200	100	100	150 50	100	100	100	×	50	国数英 (2)	68	145
信州	経法	900 250	200	100	100	160 40	300 (3)			100	国数英 (1) 調査書	65	140	
新潟	経済 科学	550 600	100	50	50	80 20	100 地歴	×	100	×	50	国数英	63	130

※参考：国公立大の入試科目・配点（抜粋） 【工学系（前期）】

大学	学部	共テ 2次 配点	200	100	100	200	100	100	100	100	100	2次 科目	得 点 率	国 数 英
			国	数 ①	数 ②	英 R L	社 ①	社 ②	理 ①	理 ②	情 報			
筑波	理工 工学	950 1500	200	100	100	160 40	100	×	100	100	50	英数物 化生 (1)	77	175
千葉	工 機械	475 900	100	50	50	80 20	50	×	50	50	25	英数物 化	73	170
埼玉	工 機械	850 400	100	100	100	160 40	100	×	200 (2)物必		50	数 小論文	67	145
信州	工 知能機械	700 590	100	75	75	160 40	50	×	150 (2)		50	数物 調査書	63	140
新潟	工 (共テ)	900 500	100	100	100	160 40	100	×	100	100	100	英数理 (3)	57	135

※（ ）数字は、選択科目数。

※【得点率】は、河合塾 2026 年度入試難易度予想ランキング表を参照

※【国数英】は、ベネッセ模試の得点の目安（作者が、合格ラインを参考にして作成）

【一般選抜（私立大編）】

	中堅レベルまで	上位～難関レベル
独自入試	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3教科が標準パターン。出題形式は客観式（マーク）</li> <li>・出題は基礎～標準レベル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3教科型が標準パターン。記述式を含む場合もある。</li> <li>・語彙や設問も高難度なことも多く、個別の対策が重要</li> </ul>
共通テスト利用入試	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日東駒専レベルで目標とする得点率は70～80%程度が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標とする得点率は85～90%以上の場合も</li> </ul>

<入試内容>

- ・3教科型が基本（文系＝英・国・地歴 or 数、理系＝英・数・理）。 ※早慶の理工系、理科2科目
- ・出題形式は、基本的には客観式（マーク）。MARCH～早慶レベルでは、記述式問題も出題
- ・出題は、大学・学部ごとの独自性が強いので、特に上位レベルを狙うなら、早めに過去問に目を通し、特徴を確認しておく
- ・共通利用入試は、3教科型が中心だが、国公立大志願者の併願に適した4～5教科型もある。中堅レベル以上では、個別試験より高倍率（特に3教科型）となり、合格ラインの得点率もMARCH～早慶レベルでは85%～90%以上になる場合も。本命校なら、独自入試で狙うほうが安全。

<受験対策>

- ・中堅レベル → 基礎～標準レベル中心の出題
- ・MARCHレベル以上 → 問題の難易度が上がり、対策のハードルも高くなる。設問別対策が必要で、時間配分対策もカギになる  
早慶レベルになると、例えば英語では、専門的で難解かつ分量の多い長文が出題されることが多く、設問や選択肢のレベルも高い。難文を解釈する精読力を鍛えたうえで、英文本文と選択肢を照合する練習も行う必要がある  
基礎固めは大前提として、各大学・学部の出題内容・レベルに応じた適切な対策を実行したい

